



2024年2月26日

リコーリース株式会社向けサステナビリティ・リンク・ローンの取組みについて ～「TSUBASAアライアンス」連携施策～

千葉銀行（頭取 米本 努）は、「TSUBASAアライアンス」^{※1}で連携する中国銀行（頭取 加藤 貞則）と滋賀銀行（頭取 久保田 真也）とともに、2024年2月26日（月）、リコーリース株式会社（代表取締役社長執行役員 中村 徳晴）に対し、サステナビリティ・リンク・ローン（以下「SLL」）を協調融資により実行しましたのでお知らせします。

SLLは、事業者さまがSDGs・ESG戦略における目標値となるサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（SPT）^{※2}を設定し、その達成状況に応じて融資条件が変動する仕組みの融資制度です。

貸出先のリコーリース株式会社は、ベンダーリースを軸としたトランザクションデータの活用を通じた企業の成長機会に対する貢献と、社会課題への解決を目指しています。さらに同社は、事業を通じた取り組みを推進することで脱炭素社会の実現に貢献しており、取り組み加速に向け、自社のスコープ1、2 ネットゼロ目標を2050年から2030年に前倒しすることを決定しました。

また、同社では、サステナビリティ経営を加速させるため、2022年12月に「サステナビリティ・リンク・ファイナンス・フレームワーク^{※3}」を策定し、CDP気候変動スコア^{※4}において最高レベルである「リーダーシップレベル(AとA-)」を維持することをSPTに設定しました。今回のローンは、本フレームワークで設定したSPTに基づく取組みとなります。

なお、本フレームワークの適合性およびSPTの適切性については、株式会社格付投資情報センターよりセカンドオピニオン^{※5}を取得しています。

当行グループは、「一人ひとりの思いを、もっと実現できる地域社会にする」をパーパスに掲げ、地域の社会的課題解決に貢献するなど社会的価値を提供し、地域に寄り添うエンゲージメントバンクグループを目指します。

- ※1 千葉銀行、第四北越銀行、中国銀行、伊予銀行、東邦銀行、北洋銀行、武蔵野銀行、滋賀銀行、琉球銀行、群馬銀行の10行が参加する地銀広域連携の枠組み。<https://tsubasa-al.co.jp>
- ※2 SDGs・ESG戦略における事業挑戦目標（サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット）
- ※3 https://www.r-lease.co.jp/assets/docs/sustainability_link_finance_framework.pdf
- ※4 世界の主要企業や都市を対象に「気候変動」「水」「森林」に関する質問状を送付し、温室効果ガスの排出や気候変動による事業リスク・機会などの情報開示を求め、その回答をもとに評価・公表しているNGOが算出するスコアです。評価は、AとA-（リーダーシップレベル）、BとB-（マネジメントレベル）、CとC-（認識レベル）、DとD-（情報開示レベル）の8段階で付与されます。
- ※5 https://www.r-i.co.jp/news_release_suf/2022/12/news_release_suf_20221222_jpn.pdf

以上

【サステナビリティ・リンク・ローン概要】

貸出先	リコーリース株式会社
貸出金融機関	千葉銀行、中国銀行、滋賀銀行（各行個別契約による協調融資）
実行日	2024年2月26日（月）
S P T	CDP気候変動スコアにおいてリーダーシップレベルを維持すること
第三者意見	株式会社格付投資情報センター
資金使途	運転資金
貸出形態	証書貸付